



ServerView with Data ONTAP-v™

インストール前にお読みください

ServerView with Data ONTAP-v™ Software インストール前に必ずお読みください。

本書は、ServerView with Data ONTAP-v™ Softwareを使用するために必要となるVMware ESXに関連する注意事項を記載しています。ServerView with Data ONTAP-v™ Softwareをインストールする前に必ず本書をお読みください。また、本書に示します内容と合わせて、本製品 (ServerView with Data ONTAP-v™ Software DVD) に同梱されております ServerView with Data ONTAP-v™ 『ストレージコントロールブレードのセットアップと開始』 マニュアルをお読みになり、インストールを行ってください。

1. ServerView with Data ONTAP-v™ Softwareインストール前の設定

1.1 ハードウェアクロックの設定

ESX 4.1 のインストール前に、BIOSセットアップユーティリティで時刻をUTC(協定世界時)に設定してください。ESX 4.1 では、ハードウェアクロックがUTCであることを前提としています。

なお、PRIMERGY BX920 S2 のブレードサーバは、マネージメントブレードとハードウェアクロックであるRTCを同期する設定が既定値となっています。BIOSセットアップユーティリティで時刻を変更する場合には、時刻設定の前にマネージメントブレードと同期する「Sync RTC with Mgmt.Blade」の項目を、「Disabled」に変更しておく必要があります。

「Sync RTC with Mgmt.Blade」項目の設定変更の詳細については、『PRIMERGY BX920 S2 サーバブレード用 D3030 BIOS セットアップユーティリティ リファレンスマニュアル』を参照してください。

以下の手順で変更してください。

1. BIOS セットアップユーティリティを起動し、「Main」タブを選択してください。
2. 「Sync RTC with Mgmt.Blade」の項目を、「Disabled」に変更してください。

BIOS SETUP UTILITY							
SysInfo	Main	Advanced	Security	Power	Server	Boot	Exit
System Overview		Enable/Disable RTC Sync with Management Blade Time.					
System Time	[20:33:16]						
System Date	[Tue 08/16/2011]						
Sync RTC with Mgmt. Blade	[Disabled]						Note: When set to Enabled the Date and Time setup item can not
▶ Boot Features							

3. 「System Time」と「System Data」をUTCに合わせて変更してください。

1.2 Advanced Processor Optionsに関する注意事項

PRIMERGY BX920 S2 サーバブレード ServerView with Data ONTAP-v™ Software 管理用 VMware ESX vSphere 4 Standard 1CPU ライセンス付バンドルタイプ (型名: PGX9224AX) については、ServerView with Data ONTAP-v™ 『ストレージコントロールブレードのセットアップと開始』 マニュアルに記載されている以下の BIOS 設定は工場出荷時に設定されています。お客様が個別に設定する必要は、ありません。

- 「Enhanced Speed Step」
- 「Enhanced Idle Power State」
- 「Intel(R) HT Technology」

BIOS セットアップユーティリティで BIOS 設定をリセットした場合などは、上記のマニュアル、『PRIMERGY BX920 S2 サーバブレード用 D3030 BIOS セットアップユーティリティ リファレンスマニュアル』 参照し設定してください。

2. ServerView with Data ONTAP-v™ Softwareインストール中の注意事項

2.1 System clockに関する注意事項

ServerView with Data ONTAP-v™ Software DVD から起動した後、ServerView Installation Manager で表示される VSX Configuration 画面では、「System clock uses UTC」設定を既定値 (チェックをいれたまま) から変更しないでください。

VSX Configuration 画面は、ServerView with Data ONTAP-v™ Software DVD から起動後、ServerView Installation Manager で以下の設定画面順で表示されます。

(ServerView with Data ONTAP-v™ Software DVD から起動) → Language Selection → Installation Manager StartUp → ServerView Installation Manager (Welcome to ServerView Installation Manager for VSX 01.02 → Installation Manager Deployment Process Selection → Configure your Unattendedn Operating System Installation → VMware ESX → **VSX Configuration**)

下図は、VSX Configuration 画面、丸印部が「System clock uses UTC」設定を示しています。



3. ServerView with Data ONTAP-v™ Softwareインストール後の設定

ServerView with Data ONTAP-v™ Software のインストールが完了し、VMware vSphere Client のインストール後、VMware vSphere Client または VMware ESX の Service Console から以下の各設定を行ってください。

3.1 Service Console メモリの設定

[概要]

高信頼ツールを導入するために必要なメモリ量を確保します。

[詳細・対策・手順]

Service Console に割り当てるメモリ量を変更します。変更するためには、以下の設定が必要です。

なお変更した設定は、ESX 4.1 の再起動後に有効になります。

1. ESX 4.1 をインストールしたサーバに、vSphere Client で接続し、root でログインします。
2. 以下の画面の [構成] の [メモリ] を選択し、[プロパティ...] をクリックします。
3. 表示されたダイアログで 800MB と指定します。
4. [OK] を選択して画面を終了します。



3.2 ネットワークアダプタの送信キュー長の変更

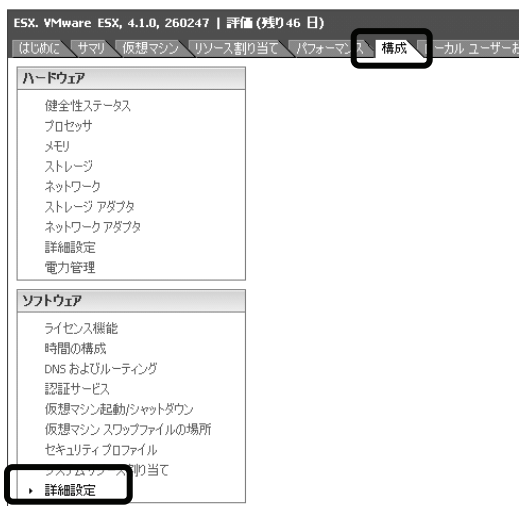
[概要]

ネットワークアダプタの設定のうち、送信キュー長の最大値を変更します。

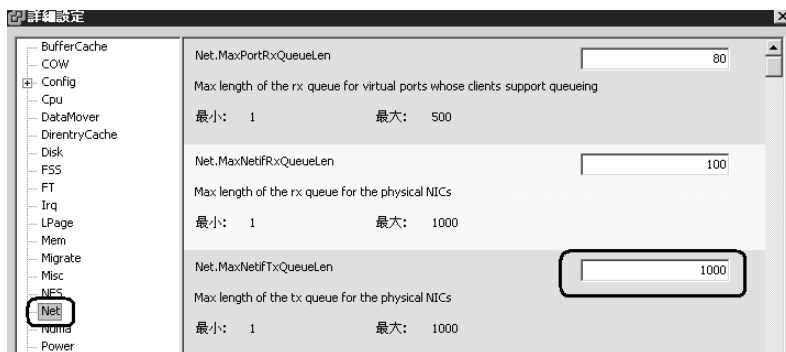
[詳細・対策・手順]

以下の手順で変更します。

1. VMware ESX に、vSphere Client で接続し、root でログインします。
2. [構成] の ソフトウェア [詳細設定] を選択します。



3. 表示されたダイアログで[Net] をクリックし、Net.MaxNetifTxQueueLen 値を 1000 に指定します。



4. [OK] を選択して画面を終了します。

3.3 NMI 割り込みの設定

[概要]

NMI 割り込みの設定を有効にします。

[詳細・対策・手順]

ESX 4.1 のインストール完了後、初期設定の状態では、NMI 割り込みを無視します。

NMI 割り込みの設定を有効にするためには、以下の設定が必要です。

なお変更した設定は、ESX 4.1 の再起動後に有効になります。

1. ESX 4.1 の Service Console に root ユーザでログインします。
2. `/etc/sysctl.conf` を編集ツール(vi 等)で、以下の記述を追加します。

```
kernel.unknown_nmi_panic = 1
kernel.panic_on_unrecovered_nmi = 1
```

3.4 健全性ステータス機能の停止

[概要]

健全性ステータス機能で用いられる `sfcdbd` プロセスを停止します。

[詳細・対策・手順]

ESX 4.1 の運用時において、健全性ステータス機能で用いられる `sfcdbd` プロセスの動作が不安定になり、Service Console の CPU 負荷が増大することがあります。その結果、スローダウンや ESX の応答が無くなどなどの問題が発生する場合があります。そのため、以下に示す手順で `sfcdbd` プロセスを停止してください。

1. ESX 4.1 の Service Console に root ユーザでログインします。
2. 以下のコマンドを実行し、`sfcdbd` プロセスを停止します。
`/etc/init.d/sfcdbd-watchdog stop`
3. 以下のコマンドを実行し、`sfcdbd` プロセスの自動起動を停止します。
`chkconfig sfcdbd-watchdog off`

なお、`sfcdbd` プロセスの起動/停止の状態は、ESX 4.1 の Service Console 上で、以下のようにコマンドを実行することで確認できます。以下に示す実行結果と同じ場合、`sfcdbd` プロセスを停止する必要はありません。

```
# /etc/init.d/sfcdbd-watchdog status
stopped
```

`sfcdbd` プロセスの自動起動の状態は、ESX 4.1 の Service Console 上で、以下のようにコマンドを実行することで確認できます。以下に示す実行結果と同じ場合、`sfcdbd` プロセスの自動起動を停止する必要はありません。

```
# chkconfig sfcdbd-watchdog --list
sfcdbd-watchdog 0:off 1:off 2:off 3:off 4:off 5:off 6:off
```

`sfcdbd` プロセスを停止することで、vSphere Client の健全性ステータス機能は利用できなくなります。サーバの監視には、高信頼ツールをご利用ください。

以上